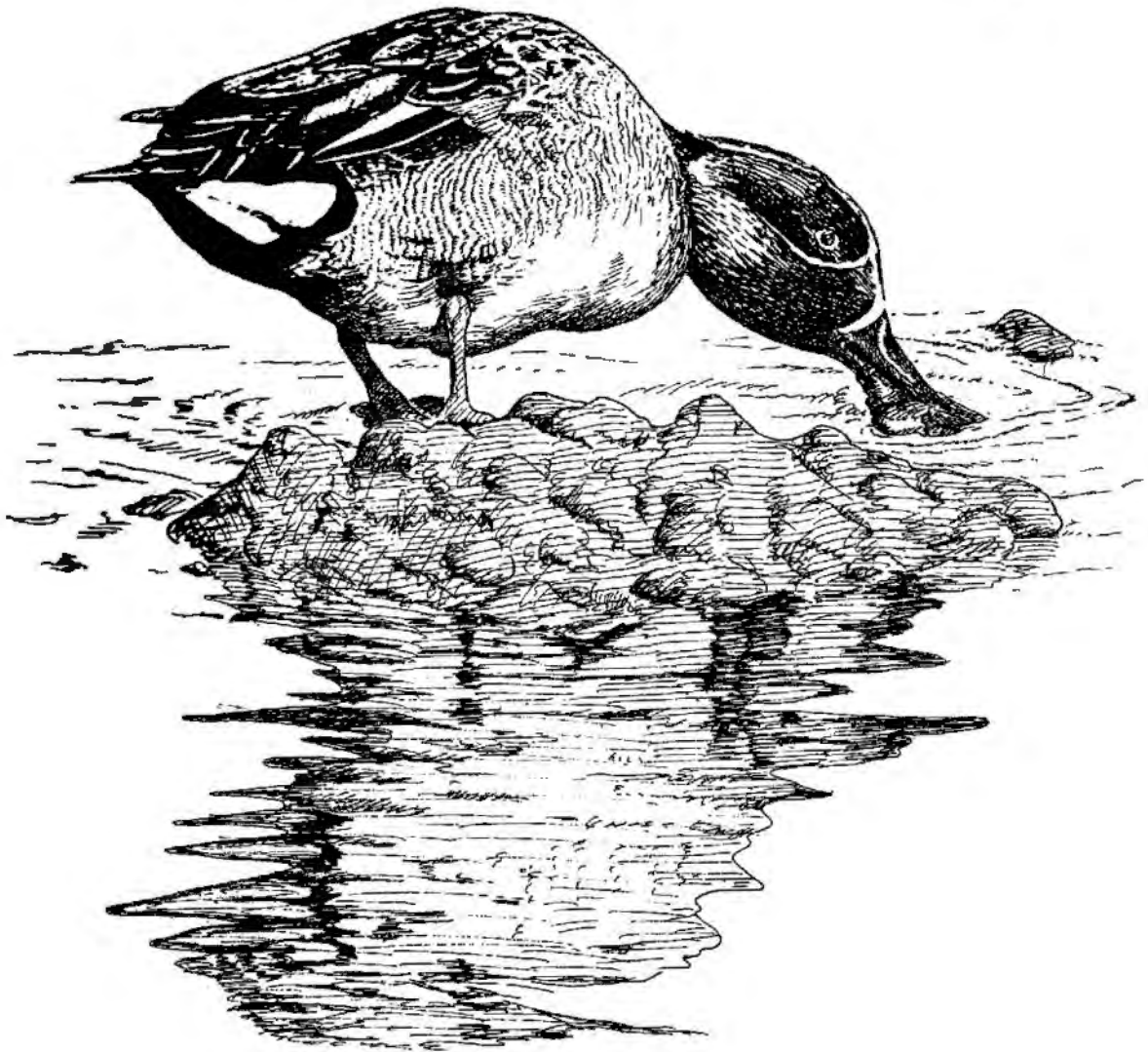


# あまご



第49号

特集：三重のため池とカモ

2005年12月

日本野鳥の会 三重県支部

<http://www.amigo2.ne.jp/~miebirds/>



### コウノトリによせて

平井正志 (安芸郡安濃町・理事)

今年9月24日兵庫県豊岡の空に5羽のコウノトリが放たれた。日本で繁殖するコウノトリが絶滅し、大陸から稀に飛来する個体だけになってしまってから、34年、その間のソ連産の個体の繁殖を続け、やっと野生に戻せるだけの余裕ができた。しかし、この5羽とその後放鳥された4羽が野外での繁殖に成功するかどうかは当地の環境にかかっている。はたしてコウノトリが捕食できるだけのドジョウやフナなどの魚が以前のように人里で得られるようになっていであろうか？地元ではコウノトリの棲める環境作りを進めてきたという。地元のその努力に期待したい。

しかし、こと三重県に限って言えば、そのような環境は望めない。水田はほとんどすべて、効率を第一とした耕地整備で画一的な乾田とな

り、水路はコンクリートで固められ、ホタルはおろかフナやドジョウの棲むところではない。カメがいったん落ちればコンクリートの壁は登れず、死を待つ以外に手はない。カエルすら湛水と産卵のタイミングが合わず、少なくなっている。その水田が昨今、減反政策と米価の低迷で、放置され、雑草だらけになっている。いや山間の水田ではハンノキまで生え、林になりつつある。今、日本にそんなに広く、効率のよい水田はもはや必要がないのである。農家は広い田圃の維持に汲々としている。たとえその一部でも以前のように様々な生き物の棲む水田にもどす絶好の機会ではないだろうか。しかし、その経済効率第一の政策を見直す声にまだ行政は耳を傾けようとしない。水田につづく里山でもしかり。経済効率を第一に戦後スギやヒノキの植林を大規模にかつ無制限に進め、生物相をごく単純して、鳥も棲めない山にしてしまった。さらに、これも水田と同じように、今は放置されている。経済的効率を第一にした政策の破綻は明らかである。

はたして、このような環境の変化は日本人の心になにをもたらしたであろうか。水田も里山も人々が楽しむところではなくなった。事実、犬の散歩は別として、田や林を仕事ではなく楽しみで歩いている人は皆無である。かといって人々は自然に無関心でいられない。世界遺産だとして知床や白神山地が宣伝され、多くの人が

### 目次

表紙の言葉	2
巻頭エッセイ	2
特集：三重県のため池とカモ	
特集によせて	3
ため池のカモ	4
岩田池の不思議	6
カモのくらしやすい池とは	7
ため池と改修	8
石垣池今昔	9
会員のページ	
幸運	11
連載：野鳥と貨幣	12
特別寄稿：里山の動物について	14
アートギャラリー	15
支部活動のページ	
支部活動の記録	16
保護部より	17
野鳥記録	18
探鳥会報告	19
編集後記	22

### 表紙の言葉

コガモ

田中豊成 (名張市)

コガモは伊賀地方でも冬の渡来する主なカモの1種で、大抵は小川や池で一冬ひっそりと過ごしています。他に、マガモ、オカヨシガモ、ヨシガモ・ヒドリガモ・ホシハジロ・キンクロハジロが例年見られるカモで、伊勢平野に比べるといずれも数は少ないです。

絵のコガモは泥の中のプランクトンと採食しているのでしょう。時折見られますね。



訪れている。いくら都会が効率良く、住み心地が良くて便利になり、インターネットが普及してもやはり人は自然なしに生きることができないのであろう。その自然を身近ではなく、遠くに求めざるを得ないのが現実であらう。多分に田舎である三重県でさえ。実は少し前まで、我々の身近にすばらしい自然があったはずだ。カワセミは普通の鳥であり、メダカはいくらでもいた。水路に網を入れれば、フナがいくらでも捕まった。ホタルも別にめずらしくはない。それが今は失われてしまったのである。ちょうどコウノトリの舞う里山と山間の田圃がなく

なったように。

今少し発想を転換し、実行すれば、三重の山間の田圃でコウノトリを見ることも夢ではないであらう。そのためには行政の発想の転換が不可欠であらう。むろん、そこに住む地元の人々の発想の転換も必要であるが。今こそ、生物の多様性を念頭においた政策の大転換が求められる。

しかるにまだ、三重県はチュウビの繁殖する木曾岬干拓地にまで運動公園を作ろうとしている。まだ発想の転換は遠い先なのであろうか。

## 特集によせて

### 編集部

しろちどり 49号ではため池とカモを特集しました。私たちの回りにはたくさんのため池があります。夏にはカイツブリのけたたましい鳴き声が聞かれ、カワセミが魚をねらい、冬になるとカモがやってきます。それをねらってオオタカが来ているかもしれません。またなぜか池によってはカモがまったく来ない池もあります。池は鳥だけでなく、魚やカメなど様々な生き物

の棲む場所です。しかし、ため池でも近年外来のブラックバスやアカミミガメが繁殖しはじめています。皆さんと共にため池とその将来について考えてみましょう。今回は特集として、今年1月のガンカモ調査の結果の一部を掲載しました。

今年もカモのシーズンがやってきました。近くのため池をそつとのぞいて見ましょう。カモたちがしずかに羽を休めているでしょう。今年はずららしいカモにあえるかも知れません。



伊賀亀井池

伊賀  
亀井池  
2005/10/1

しろちどり 49号



## 特集：三重県のため池とカモ

ため池のカモ（2005年1月の記録から）

編集部

三重県の委託により、野鳥の会などが調査した2005年のガンカモ調査の結果から、比較的個体数の多い池（おおむね100羽以上）、及び以前から野鳥ファンにとってなじみの深い池を抜粋して表に掲載した。なおガンカモ調査では川や海の調査を含んでいるが、今回の表からは除外してある。個体数の多い池は津市 岩田池、鈴鹿市 石垣池、山上池、伊勢市 勾玉池、志摩市 片田の池である。岩田池、石垣池、山上池は市街地の池であり、ホシハジロが主体である。勾玉（まがたま）池と片田の池はマガモが主である。勾玉池は外宮内にあり、以前から有名であり、調査が続けられている。片田の池は志摩市片田にある小さな池である。

カモファンに人気のある種で見ると、オシドリは神路ダムで202羽、宝光池で94羽、安濃ダムで71羽、君ヶ野ダムで42羽が見られた。安濃ダムのオシドリの変化については「しろちどり」x x号を参考にされたい。宝光池は松阪市の松阪カントリークラブ内の池である。以前に多くのオシドリが見られた青蓮寺湖では今回3羽のみであった。

ヨシガモがある程度まとまって見られたのは伊坂ダムと鈴鹿市太陽の街調整池だけであった。その他では数羽程度であった。なおヨシガモは五主海岸の三渡川河口付近でもかなりの個体数が見られる。トモエガモは2003年から2004年にかけての冬に県内各地で見られたが、今回の調査では海、河川も含めてまったく見られていない。このカモの飛来は年による変動が多いものと思われる。

ミコアイサは石垣池で毎年見られ、今年も9羽が見られた。

以前多くのカモの見られていた、山村ダム、伊坂ダム、真泥池などは今回少数のカモが見られただけであった。

全国的には数多い、オナガガモ、ヒドリガモは三重県下のため池では少なかった。しかし、伊勢市の祭り博調整池では500羽以上が見られている。

伊賀地方では100羽前後の池がいくつかあったのみでカモが多数見られる池はなかった。東紀州では御浜町の七里御浜の背後にある壺ノ池で109羽のカモが見られたのが最高であった。なお、ツクシガモ類、ガン、ハクチョウ類は今回2005年の調査では海、川も含めて全く見られていない。

ウド





表 2005年1月三重県ため池のガンカモ類調査結果

ため池名	市町村名	オシドリ	マガモ	カルガモ	コガモ	ヨシガモ	オカヨシガモ	ヒドリガモ	オナガガモ	ハシビロガモ	ホシハジロ	キンクロハジロ	スズガモ	ホオジロガモ	ミコアイサ	合計
中里ダム	いなべ市		26	17												43
両ヶ池	いなべ市		65	76	44		27			36	40	24			1	313
菰野調整池	菰野町		37	42	25	2	23				17	14				160
山村ダム	四日市市		72	28	35						3					138
伊坂ダム	四日市市		2	47	8	20		5		1						83
道伯池	鈴鹿市			161	7		1				3					172
石垣池	鈴鹿市		32	88			5	47			1780	8	3		9	1972
ざる池	鈴鹿市		33	26	56		7			24						146
山上池	鈴鹿市		52	45			43	45	39	65	1087	65	1			1442
江島の池	鈴鹿市		4	8	50			12			25	66				165
御座ヶ池	鈴鹿市			57							789	7				853
加佐登調整池	鈴鹿市		119	136	254	5		44	11							569
太陽の街調整池	鈴鹿市		26	10	8	20	22	2		26		22				136
丸岡池	鈴鹿市		10		90			6								106
和田池	亀山市		35		28					2						65
横山池	芸濃町		2	38	16		16				27	5		1		105
安濃ダム	芸濃町	71	3	3												77
岩田池	津市		152		15		18	4		143	3430	14	4			3780
二重池	津市		4	60						65		4				133
殿村池	津市		38		62	4		16		11	8	7				146
緑の街調整池	津市			2	44		32	57			5					140
中の池	津市			28	28					16	8	10				90
大釜池	久居市		82	7						25	18	3				135
風早池	久居市		18													18
山田池	久居市		2	38							13	2				55
高砂養魚場西池	香良洲町									9		192				201
君ヶ野ダム	美杉村	42	53													95
宝光池	松阪市	94	276	56	2					8	12	4				452
八重田池	松阪市		68	1	29						21	1				120
上川町大池	松阪市						130	13								143
下村パークタウン	松阪市		2	55	90					16						163
勝田池	玉城町		56		199	6	35				2	4			1	303
外宮の池	伊勢市		38		236											274
勾玉池	伊勢市		1281	7	39			6		6						1339
まつり博調整池	伊勢市		6				14	2	535	3	69	182	32			843
サン・アリーナ調整池	伊勢市			36							234	15				285
ニッ池東池	伊勢市			175						2	2	15				194
牧戸池	度会町	3	90	32				6								131
神路ダム	志摩市	202	5									3				210
片田の池	志摩市		1250				80	142			30					1502
真泥池	伊賀市		3	8								1				12
三ッ池	伊賀市		39				14				40					93
松ヶ谷池	伊賀市		152													152
中之池	伊賀市		20							60	60					140
青蓮寺湖	名張市	3	10	3				22								38
壺ノ池	御浜町		8	88		6		3	4							109

特集：三重県のため池とカモ





## 特集：三重県のため池とカモ

### 岩田池の不思議

西浦 克征 (津市)

家から池まで歩いて5分程度と言うのに最近  
は行くことが少なくなってしまった。じっくり  
見るのは毎年1月に行われるカモの調査の時く  
らいのものである。岩田池は交通量の多い国道  
165号線や近鉄線のすぐ傍にあって、冬季には  
通りすがりの車内からも沢山のカモを見ることが  
できる。3年ほど前には国道と池の間が公園  
化され一見美しくなり、また対岸はクヌギなど  
の木々が繁りその後ろはあまり見えないが、す  
ぐ近くまで民家が押し寄せ寄せてきている。鳥たち  
にとっては益々住みづらくなってきたのではな  
いかと思う。

そこで、これからの岩田池を考えていくため  
にも不思議(疑問)と感じていることを書き留め  
てみた。

#### ① 池の水はどこから来るの？

今年の6月、久しぶりにカイツブリの状況  
を見るために行ってみた。池の全面が緑に覆われ  
て一見みずみずしい光景に映った。しかし、よ  
く見れば水はほとんど無い状態で緑はヒシの葉  
であった。今年は空梅雨で安濃ダムなどでも湖  
底が見える状態が続いていた。水が無くてはカ  
イツブリの浮き巣も姿も見ることが出来なかつ  
た。水位が少し回復した9月に、水源を探して  
池の周り一周してみた。行けない所もあったが、  
西側から流れ込む雨水兼生活排水溝から  
チョロチョロとした水の流れが確認できただけ  
であった。これ以外にも、近くの団地の調整池  
からのオーバーフロー水も流入するようには  
なっているようである。多分以前は後ろの千歳  
山からの流れ込みもあったと思われるが、開発  
でそれも無くなってしまったのではないかと思  
う。数年前から池の西側を覆っていたアシが少  
しずつ減ってきているように感じられるが、水  
質との関係はないのだろうか？ このアシの茂  
みはカモのカウントには邪魔であるが、多くの  
鳥たちの隠れ家や餌場になっている。かなり以  
前のことであるが、ツリスガラがカサカサと餌  
捜しをしていたこともあった。

しろちどり49号

#### ② スズガモがほとんど入らなくなったのはなぜ？

別表の岩田池のカモの推移は三重野鳥の会  
の機関紙「あおさぎ」の記録や全国一斉の調査

種別	年	1987	1988	1989	1990	1991	1997	1998	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005
マガモ										90	880	12	155	25	152
カルガモ		4	33	68	32	76	125	52				2			
コガモ		7	3	4	18	80	28	20		10		2	5	18	15
ヨシガモ												1			
オカヨシガモ							6	2				10	14	6	18
ヒドリガモ				2	7									15	4
ハンビロガモ			132		63	6	27	15		275	110	30	10	10	143
ホシハジロ		1365	1356	760	1420	653	2100	1850		4840	1457	1109	2850	3936	3430
キンクロハジロ		84		7		93	37			20	3	4	6	10	14
スズガモ		2947	969	344	240	393	5800	26		965			10		4
計		4407	2493	1185	1860	1301	8123	1965	2250	6200	2450	1170	3050	4020	3780

表 岩田池のカモ渡来数の変遷

注:1987年から1991年は三重野鳥の会機関紙「アオサギ」による。1997年以降は筆者の調査による。



のデータから取ったものである。データの欠けている期間はあるが、沢山いたスズガモが2001年以降ほとんど入らなくなり、白が目立った水面が近年は赤茶ぼっく見えるほどにホシハジロ中心となっている。近年スズガモは狩猟期間中は海上で群れているのを見ることが多いように思うが、岩田池は海からも近いし安全な場所であるのに、何故来なくなってしまったのか。スズガモは他のカモに比べて特に臆病なんだろうか？ また1990年代からカルガモもほとんどいなくなり、それに代わってマガモが多くみられるようになったのも何故だろう。(すぐ近くの二重池上池はカルガモばかり)

③ 夜の岩田池はどんな様子なんだろう？

カモが沢山来ているころは寒い季節であり、日が沈んだあとは中々外には出にくい。そんな

こともあって暗くなってからの池を見に行ることが無い。10年ほど前になるが岩田池のすぐ東側にある千歳池の近くで、冬の早朝にカワウの調査をしたことがある。暗くて何ガモかはよく分からなかったが、頭のすぐ上を大群で岩田池に向かって飛んでいく羽音を聞いた。後で考えてみると、多分海ガモが阿漕浦あたりでの採餌を終えての帰りだったのだと思う。陸ガモたちはその間、どこかの草地にでも出掛けているのだろうか。岩田池にも季節の初めの頃はヒシの茎などの餌もあるが、それだけでは十分ではないのではと思う。カモたちがどんな夜の生活をしているのか、一度この目で確認してみたいものだ。

岩田池の不思議などと書いていて、ただ単に私だけが知らないことカモ知れない気がしてきた。

水鳥がくらしやすい池とは

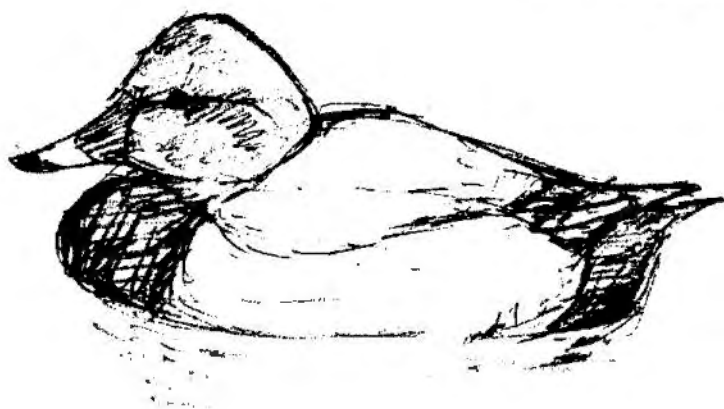
西村 泉 (度会郡玉城町)

伊勢平野では、昔から米作りが盛んで、水田に水を引くため数多くの溜め池がつくられました。冬季、溜め池にはカモなどが飛来し、水鳥たちの格好の生息場所になります。ところが、溜め池をいくつか巡ってみると、カモがいる池と、いない池があります。水鳥にとって暮らしやすい池とはどんな池か、拡張工事を予定している溜め池を通して考えたいと思います。第一に狩猟ができる池か、そうでないかの違いは大きいと思います。たしかに、狩猟ができない安全な場所と知ってか、コンクリートで囲まれた狭い調整池でも、満杯状態のカモを見ることがあります。

三重県南部、明和町と玉城町にまたがる齋宮池という灌がい用のため池があります。水面に緑が映り水草が自生す

る美しい池ですが、残念ながら保護区になっていないためマガモなどの水鳥が少数しか飛来しません。齋宮池は大台町で取水された宮川の水が導管によってこの池に入り、農業用水として伊勢市や御菌村、二見町の田畑を潤しています。近い将来、隣接する惣田池との間の山土をとり、さらに南部の田畑を掘削して巨大な農業用調整池に姿を変えます。この事業は国によって進められ、一度に大量の水を必要とする今の米作栽培に対応するため、ポケットの容量を大きくするのだそうです。一方、めったに人が近づかな

ホシハジロ





## 特集：三重県のため池とカモ

い惣田池には、警戒心の強いオシドリが飛来することがあります。この池は小さいながらも周りを緑に被われ、なだらかな陸と入り江があります。このことから身を隠しやすい入り江と樹木があれば、狩猟ができる池でも人や猛禽類からも狙われにくいという利点がわかります。(オシドリは狩猟鳥ではありませんが)そして、エサが採ればいうことありません。齋宮池には、水草が自生している場所は一部分です。水草は水鳥のエサになったり、カイツブリの浮き巣の材料になります。水草は深い場所には自生できませんから、浅瀬が大事になってきます。つまり、水鳥にとって暮らしやすい池とは、安全でエサが確保しやすいということです。溜め池の目的は、確実に水を溜めることです。浅瀬や入

り江の保全は、その目的から外れますが、多様な生態系を守るためにも重要です。

今春、この事業が環境に及ぼす影響について、調査・予測・および評価をとりまとめた「環境影響評価準備書」が作成されました。その準備書に対し、三重県支部は意見書を出しました。そのなかで、今ある環境を保全することを優先すべきで、水鳥の生息地を確保してほしいと要望しました。こうした拡張工事をする溜め池もあれば、いつの間にか埋め立てられ無くなっている溜池もあります。社会情勢の変化で田畑がつぶされ、溜め池が不要となるからです。水辺がなくなると、水鳥は暮らしてゆけません。結局、水鳥の生息できる環境は、私たち人間が守らなければならないのです。



### ため池と改修

平井正志(安芸郡安濃町)

三重県で見られるため池の多くは古い時代、おそらく江戸時代に水田拡大や農業用水の確保のために作られたようである。はっきりとした歴史が知られているため池は少ないであろう。多くは山間地の谷に堤防を築いて、水を溜めたものである。水は堤防の下の水路を通して、下流の水田に導かれる。それでも多くの場合取水口にコンクリートが使われているので、明治以

降改修されているものが多い。谷筋のため池の場合、堤防が短くてもすむ当然急な斜面の場所を選んで作っているため、池の周囲はなにも造作されておらず、植物が繁茂し、水辺は隠れていることが多い。しかし、池の奥、堤防と反対側は緩やかになっている場合が多い。この場合、アシが生え、泥の水辺になっている場合もある。夏には稲作のために、水を落とすので、裸の土の部分が水辺にあらわになる場合もあるが、カイツブリが繁殖する場合も多い。冬は満水状態



町屋川





であり、カモなどが潜む水辺が維持される。比較的閉鎖された環境になっている。これを狙ってオオタカが飛来するため池も見られる。

これに対して、北勢の鈴鹿山麓には平地のため池が多くある。特に旧大安町、菰野町、四日市市西部にかけては多い。平地のため池の場合はやや異なる。緩やかな勾配をもつ平地に2本の直交する、あるいは3本の堤防をコの字形に築いたため池がある。おそらく、水利権や土地の関係で山手にため池を作れなかった農民が作ったものであろう。これらの平地のため池では周囲が樹木に覆われていることはあまり多くない。比較的解放的な池になる。しかし、堤防の反対側(山側)はごく緩やかな水辺になり、アシで覆われ、泥が堆積し、いわゆる湿地となり、その背後には林がある場合もあり、植物相が豊かである。当然ここには人が入れない。カイツブリなどの棲息に絶好の場所となる。またサギ類が餌を採りに来る。カモも休む。カメが産卵のために上陸するのにも適した場所になる。このようにため池の生物相を豊にしている要素のひとつは水辺であろう。それも人が入れない水辺が野鳥にとっては重要な役割を担っている。

近年三重県下各地のため池で改修工事が行わ

れている。ため池の多くは古い時代、おそらく江戸時代に作られたため、堤防がゆるんだりしていると思われる。堤防が改修されると堤防側にコンクリートの羽目板が張られるようである。谷筋のため池であれば、それは水辺のごく一部であるが、平地のため池の場合には延々とコンクリートが張られることになり、水辺の大部分が生物を寄せ付けないものになってしまう。はたして、流れで洗われることのない池の堤防にコンクリート羽目板を張ることが必要なのであろうか？他の選択肢も多いはずである。多くのため池が築かれてから200年くらいはコンクリートなしで維持されてきたはずである。

堤防の改修と同時に多くの場合、周辺整備の名のもとに、池の周囲が人間に都合の良いように、むしろ人間に心地よいように変えられる。これまで人が近づけなかった池の周囲の藪を刈り払い、人が入れるように遊歩道を作ることが多い。みはらしのよい遊歩道はカモや警戒心の強い野鳥の棲めない場所になる。ごく特別な場合以外このような遊歩道は作るべきでない。

水辺、とくに緩やかな斜面の水辺、人の近づけない水辺を残すように配慮した工事を望むものである。

## 石垣池の今昔

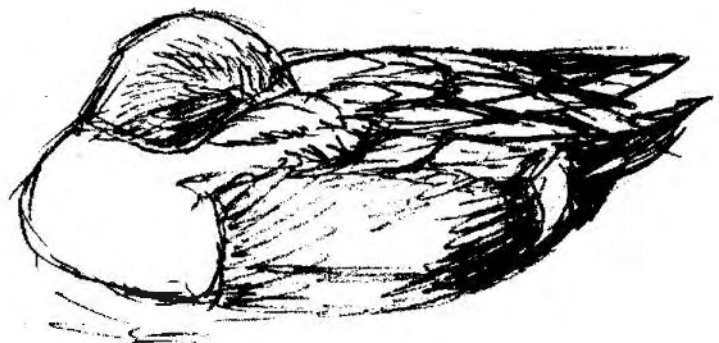
市川雄二(四日市市)

石垣池は鈴鹿市のほぼ中央に位置した鈴鹿市西玉垣町にある広さ 約14.3ヘクタール、周囲1.3kmのため池です。池の中には通称中の島と呼ばれる小島があります。池の周りは西部には松林、南側にはマンション、東側には人家が建ち並んでいます。

今から20年ほど前、池の東南部はヨシが茂る湿地でした。ここにはモウセンゴケやイシモチソウなどの食虫植物がはえ、ヨシ原ではパンやカイツブリなどが棲息していました。今このあたりは公園をはじめ、市の野球場や運動公

園となっています。一方南側は田畑であったところがアパートとなっています。このように20年の間に石垣池の周辺は大きく変貌を遂げ、自然環境が著しく変化し、貴重な湿地植物の姿は

ハシビロガモ





## 特集：三重県のため池とカモ

今はありません。さらに将来は西側に中勢バイパス道路の建設が予定されています。

さてこの石垣池にある中の島は以前松林に覆われ、長年シラサギ類の集団繁殖地として知られていました。1000羽近くシラサギ類が、初夏の頃、子育てに励んでいました。また昭和59年(1984年)頃、約300羽のカワウが飛来し、集団繁殖を始めました。カワウの繁殖は当時全国でもめずらしく、8番目でした。2月上旬から8月ごろまでカワウの子育てをする姿をすぐ近くで観察することができました。シラサギ類とカワウの子育ての共存はみごとで、特に鳴き声は、ガーガー、グルルルと声はよいとはいえないが、島中に響き渡る自然の競演でした。中の島のマツの緑に白と黒の混じった光景は実にすばらしい光景でした。

しかし、昭和60年(1985年)、中の島の松林は、松食い虫の被害のため、全体が伐採されてしまい、翌年の繁殖は伐採された切り株や、地面に巣作りをしていました。繁殖場所を失ったカワウやシラサギたちは、池の西に面する松林へ移ってしまいました。また、石垣池はカモ類の県内でも有数の越冬地です。年によって変動がありますが、最大約12種類、数千羽のカモが見られた時があります。

昭和57年(1982年)頃、一時は中の島に橋をかけ、そこに遊歩道を整備し、市民の散歩道にする計画がありました。しかし、すばらしい自然を破壊してならないと、当時の三重野鳥の会は、このすばらしい野鳥の楽園を守ってほしいという趣旨の要望書を提出し、市当局の理解を得て、この計画が中止になった経緯があります。その後、市当局は伐採された中の島を、カワウやサギ類の繁殖地になるよう、樹木の植栽をし、偽木を建て、再生に努めてくれました。

さらに1998年、小さいながら、池端に観察小屋を建ててくれました。以降、西側に仮住まいしたカワウは一部1999年から再びもとの中の島に繁殖を始め他のです。2000年から、市はこの石垣池で野鳥観察会を開催し、現在に至っています。最近では10数羽のミコアイサや、オオタカが時々現れます。2000年にはトモエガモが観察できました。2004年、カワウは最大時の1000羽近く、カモ類は1000羽ぐらいになっています。増加するカワウによって騒音、ふん害、池の汚濁など問題化しています。今後共存の道を探ることが大きな問題です。

表 石垣池のカモ(1月に調査したもの)

調査年	2003年	2004年	2005年
マガモ	85	33	32
カルガモ	67	37	88
ヨシガモ	12		
オカヨシガモ	3		
ヒドリガモ	21	2	5
オナガガモ	91	21	47
ハシビロガモ	142		
ホシハジロ	465	389	1780
キンクロハジロ	25	42	8
スズガモ	120		3
ミコアイサ	10	13	9
合計	1,041	537	1,972

ホオジロガモ



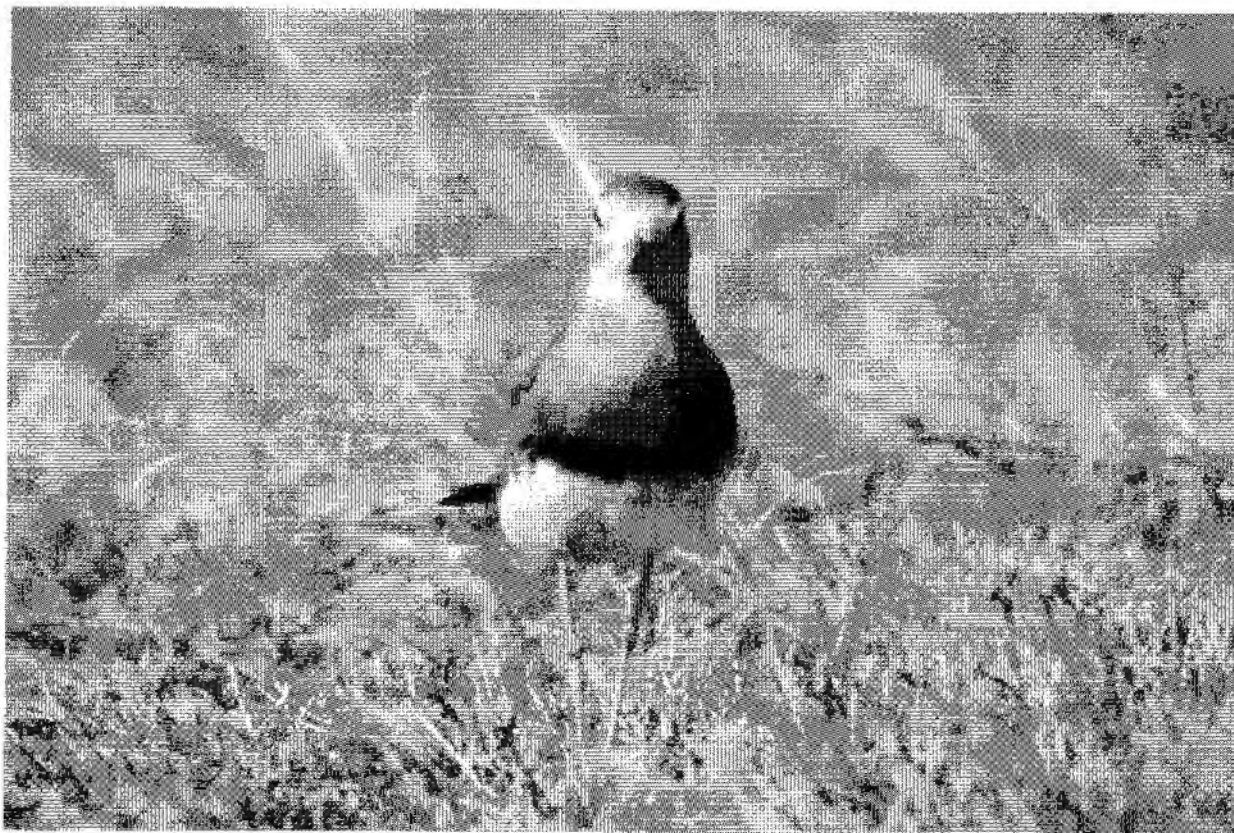


幸運

清水勝海（紀宝町）

私がオオチドリと出会い撮影できたのは、幸運と偶然が重なったからだと思います。4月14日の早朝、熊野市の中井節二さんより電話があり、その内容は、御浜町市木の水田に、メダイチドリが入っているとの事でした。メダイチドリは、まだ見ぬ鳥です。早速出かけました。御浜町市木の水田は車で15分位の所にあります。メダイチドリをデジスコで撮影し水田を1回りして家に帰り画像をパソコンに取り込みました。デジカメのモニターでは、何とか撮れているように見えたのですが、残念ながら満足いく画像ではありませんでした。午後再度市木の水田に出かけました。メダイチドリを撮影し帰ろうとしていたところ、少し離れた水田のあぜ道に、少し変わったチドリを2羽見つけました。「綺麗なオレンジ色の胸、黒い横帯」この時はまだオオチドリとは知りませんでした。早速デジスコで10枚ほど撮影しました。撮影をして次の水

田にさしかかったところこの水田のあぜ道に、同じ色のチドリが2羽おりました。残念ながらこの2羽は撮影をしませんでした。本当は4羽確認しましたが、後の2羽の画像が無い為、報告は2羽となっています。家に帰りパソコンに取り込みました。明らかにメダイチドリとは違っていました。図鑑でしらべると、オオチドリではないかと思い、中井さんにメールにて確認を依頼しました。返事はオオチドリに間違いなく、また三重県では初確認、初撮影ではないかとの事で、大変驚き、嬉しくおもいました。翌日市木の水田に行きましたが、白っぽい顔、綺麗なオレンジ色の胸、黒い横帯のオオチドリはもういませんでした。今でも市木の水田に行くと、いないのが判っておりながら、オオチドリのいたあぜ道を覗いてしまいます。メダイチドリの撮影がうまく出来ていたなら、オオチドリには出会えなかったと思います。オオチドリに出会い、撮影をすることができたのは、幸運と偶然が重なった事だと改めて思います。（写真も筆者：オオチドリの記録は「しろちどり」48号、野鳥情報に掲載してあります。）







## 野鳥と貨幣(続々編)

坂口 守(鈴鹿市)

### 9. 日本の紙幣

紙幣について調べてみると、なんと、日本で一番古いお札は元和年間、伊勢山田で流通した「山田羽書(はがき)」であった。これは、山田商人が発行元となった私札であった。さて、最近紙幣コインまで偽造が話題になっている。当局もその対策には苦慮している。年々印刷技術の発達と共に偽造防止のため、改刷が繰返されてきた。肖像も、和気清麿、藤原鎌足、二宮尊徳、高橋是清、板垣退助、岩倉具視、伊藤博文、聖徳太子から1981年福沢諭吉、新渡稲造、夏目漱石の文化人が登場した。裏面には従来のような、法隆寺、正倉院宝物等でなく、日本を代表する風景や鳥が使用された。1万円券には「キジ」の雌雄、5千円券は富士山、千円券は左に「タンチョウ」の雄、右に雌が配置された。2004年、今の紙幣は一般にコピー機の進歩などによる偽造防止のため、再度、精度の高い印刷技術を導入して、これら3券は改刷された。残念なことに裏面から1万円券の鳳凰を残し、野鳥が姿を消したことである。

この間、2000年にはミネアムスの始まりと、沖繩サミットを記念して守礼門、裏には源氏物語の一場面をあしらった2千円券が発行された。ちなみに、世界最初にお札が作られたのが源氏物語の頃であったということだ。

### 10. 珍しい日本のコイン

お金に現れる野鳥をいろいろと調べているうちに、日本の穴あきコインは世界でも珍しいものであることを知った。原形は昔、铸造後に四角い棒を穴に固定して回転、まわりを綺麗に削ったのではないかと、また、穴に紐を通せば持ち運びが便利であった。偽造防止の一手段として昔から馴染みのある穴銭の丸穴を中央にあげ、他の貨幣との識別が容易であるとともに材料の節減をも意図されたものと思う。

昭和に入ってから5銭、10銭のニッケル貨、その後、アルミニウム貨に切り替えられた。昭和24年から円単位となり、5円黄銅貨、50円、

ニッケル貨、白銅貨が作られるようになった。この穴あきコインは世界でも珍しいため、マニア間では評判がよいとか、珍重されている。私も海外旅行のとき、5円穴あき銭を持っていった。それは、ホテル宿泊時のチップと共に枕辺にそっと置いた。またご縁がありますようにと、喜ばれるのを兼ねたささやかな慰めであった。先輩から教えられた智慧はこの他に、真珠玉が喜ばれるのでチップと共にお渡しするのだとのことで、職場の上司が海外出張の時、君は三重県出身だから、選別屑の真珠を少々用意してくれと頼まれたことがあったことを思い出している。中国では、貝も立派なお金であったのだ。

それから、戦時中にはこの穴あきコインが有効に利用されていた。海外出征兵士が戦地に赴く時にお腹に巻く千人針と呼ばれるものである。無事の帰還を祈って、白木綿に糸の結び目を作り、当時の5銭と10銭の穴あきコインの白銅貨を一緒に縫い付けられた。“溺れるものは藁をも掴む”の譬えのとおり、五銭は四銭(死線)を越えるもの、十銭は九戦(苦戦をくぐり抜ける)として貨幣の持つ魔力に一縷の望みを託したのであろう。また、この千人針によって弾丸をはじき命拾いした話も聞いたことがある。以上、穴あきコインには日本特有のエピソードがある。

### 11. 世界の国鳥

世界の貨幣の模様決定に、幾分なりとも参画したいと思われる国鳥についても、調べてみることにした。1960年国際鳥類保護会議が開かれ、各国が国鳥を選ぶことが提案されこれを契機として、各国が決めていった。ほとんどが、国に特産する種や、数の多い親しまれる種が選ばれている。例えば、水郷の国オランダはヘラサギ、オーストラリアは特産のエミュー、グアテマラでは世界で最も美しいといわれているケツァール、島国のアイルランドはミヤコドリなど、その国を宣伝するにふさわしい鳥が選ばれている。

アメリカは早く1782年の会議で、白頭鷲を国鳥に定めている。この鷲は嘴にラテン語で「多数から一つへ」E pluyibus unum. と書かれたり





ポンを啜え、胸元には、13の赤と青の立嶋模様の楯をつけ、右足でオリーブの枝、左足で矢を掴んでいる。これは、独立した13州が永続的な同盟を保持することの決意を込めているのだそう。当時のフランクリン大統領は「アメリカのハクトウワシは怠け者である。よくミサゴの採った魚を横取りするような、ずるい鳥である」と言う理由で反対したと言うエピソードを聞いたことがある。しかし、アメリカは勇ましく、美しい鳥として知られているものを国鳥に選んだのであろう。

日本は、1947年3月日本学会の例会に於いて、いくつかの候補の中から決められた。その理由は、

1. 日本特産種であること。
2. 桃太郎の話にもある通り、古くから親しまれてよく知っている。
3. 雄は雄々しく勇ましく、雌は「野焼きのきぎす夜の鶴」の例にもあるように、柔しく母性愛が強いなどがあげられる。

検討の結果「キジ」と定められた。また、その年の4月10日に第1回愛鳥の日が設けられ、野鳥保護運動が始まった。1950年から、5月10日からの1週間が愛鳥週間となった。

(表一 世界の国鳥)

#### 12. あとがき

昨年11月紙幣3券が新券となった日本天然記念物のタンチョウの求愛行動の姿も、国鳥のキジも姿を消した。鳥仲間には一抹の寂しさを感じる。現れたのは1万円券の鳳凰である。やや時代が遡った感じである。代わりにトキカツルでも載せて頂きたかった。

野鳥に魅せられて、お金の世界に迷い込んでしまったが、この分野は広大深遠、全くの素人の入込む領域ではなかった。

どの国でも、発行当時の権力者が自然界の叡智に関心があったかどうか、野鳥に関心の有無で決定される野鳥は哀れである。然しながら、コインを調べていく間に、多くの国で野鳥を自慢していることも判った。今回近くの図書館で見られる諸先生の研究発表論文などを、参考に調べてみることにしたのであった。

先進国の採用した野鳥は、その国の象徴と

なった鳥であり開発途上の国では、その地域で珍重され、世界的に有名な希少価値のある野鳥で、観光宣伝効果を狙ったものが多いと思われた。調べているうちに一度実物を見たい気持ちに誘われるのであった。それがまた、貨幣にまでなっているところに価値があるのである。

拝見した資料文献には、立派な写真が掲載されている、拾い読みで理解不足のため、誤解している分野もあると思われる。世界でおよそ9000種の鳥類が現存するといわれている。ここに貨幣に採用された鳥は約100種の幸運の野鳥達である。

#### (参考文献)

動物たちの地球	朝日新聞
お金の歴史全書	湯浅建夫(訳)
貨幣と歴史	東海銀行貨幣資料館
西洋貨幣史	久光重平
お金の博物館	富田昌宏
貨幣論	岩井克人
コインの考古学	新井祐造(訳)
富本銭と謎の銀銭	今村啓司
貨幣の誕生	三上隆三
コインの歴史	思 泰男
貨幣なぜなぜ質問箱	大蔵省印刷局
世界のコイン	藤沢 優
世界のコイン	中村佐伝治
日本大百科全書	小学館
世界のコイン図鑑	平石国雄、二橋英夫
世界の紙幣図鑑	植村 俊
世界の記念コイン	中村佐伝治
日本のコイン	中村佐伝治
コインのお国柄	日経新聞
コンサイス鳥辞典	三省堂
その他	

(長らくご愛読いただいた「連載：貨幣と野鳥」はこれでおしまいです。編集部)



### 里山の動物について

(三重県自然環境室)

近年、野生生物が人里におりてきて人間との間に様々な軋轢を生み出しています。特に昨年のクマ騒動は記憶に新しいところです。このクマ騒動、台風の影響やえさ不足もさることながら、奥山と人里との間に存在し緩衝帯の役割を果たしてきた里山が、手入れ不足で荒廃し本来の緩衝帯の役割を果たさなかったことも原因の一つのようです。

幸か不幸か、三重県では大きなクマ騒動は起きませんでした。これは三重県の山が豊かと言うよりも、むしろクマの数が少ないことが主な原因でしょう。紀伊半島に住むクマたちは東北や北陸に住むクマたちとは隔離された個体群で、その数は奈良・和歌山・三重合わせて約180頭しかいません。

一方、県内でおなじみの野生動物と言えばサル・シカ・イノシシでしょうが、野生生物の正確な生息数は分かっていません。そのため以下の調査を進めています。

シカは糞粒法といって糞の数からその地域の生息数を推測する方法でモニタリングを実施しています。現在のところ、県全体で約25,000～50,000頭が生息していると思われます。シカは性成熟が早いのに加え、毎年出産を行うため死亡率が下がれば爆発的に増加します。そのため、三重県では櫛田川より南の区域においてメスジカを狩猟獣化し、適度な捕獲圧がかかるようにしています。

サルについてですが、平成10年度から2カ年、生息実態調査を委託するとともに、平成12年度より3カ年かけて県内中の群およそ100群に電波発信機を装着しました。その結果、いろいろなことが分かってきました。

まず、一般的に思われているようなオスのボスザルというものは存在しません。サルの群は母系社会であり中心となっているのはベテランのメス達です。群は縄張りを持ち、縄張りに他の群は入ってきません。

一群がおよそ平均50頭として、未装着の群や離れザルを含めても、せいぜい1万頭といっ

たところではないでしょうか。

群によって性格も違い、集落周辺に依存しているものもあれば、そうではない群もいます。山に食べ物がなければではなくギャップ部の広葉樹の葉などを摂食しています。一方で、土手の葛や落ち穂といった「食べても人間が怒らない」格好の餌がサルを里に餌付けしてしまっています。

本来サルは増える数と減る数のバランスが取れており、急激に数の増える動物ではありません。しかし、栄養状態がよくなると出生率が上がり数が増えるようになります。もしサルの数を減らしたいのならサルを駆除するよりも、畑の物を食べさせず出生率を下げさせた方が効果的と思われます。

もし、サルは出没するが被害はないというのであれば、今が正念場です。被害はないと言っても上に書いたように知らずに餌付けしている最中かも知れません。目に見える被害はなくてもサルを見たら追い払うようにしないと里に居つくようになってしまいます。

一斉造林が行われた昭和30年代ではなくここ数年で被害の声が増えてきていることから、巷で言われるような造林によって住処と食べ物を奪われたというのは一律に当てはまらないような気がします。

むしろ、山村の人手不足が追い払い圧力の低下を招き、サルの群を人里に定着させてしまったのではないのでしょうか。そう考えると里山の荒廃と獣害問題はどこか通じるものがありそうです。

(この原稿は47号里山特集のために三重県自然環境室からいただいていたものです。編集部の手違いで、47号に掲載もれになっていました。著者にお詫びすると共に掲載させていただきま。今後このようなことの無いように注意いたします。編集部＝文責 平井)



アオサギ 谷本勢津雄（遺品の写真より、撮影日時、場所不明）



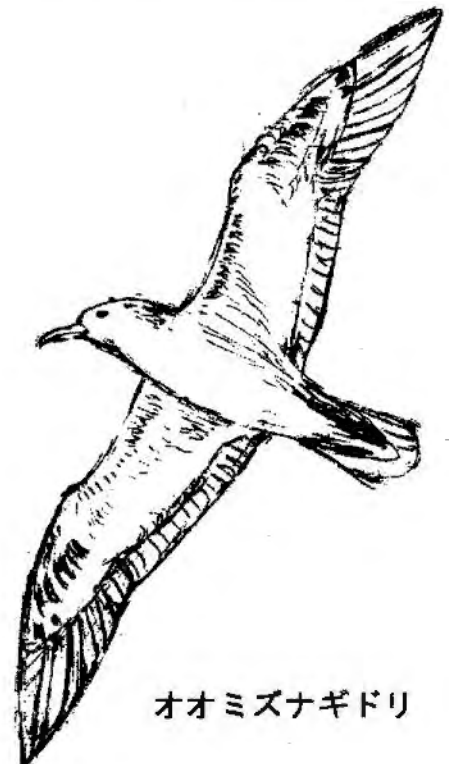


### 支部活動の記録

事務局まとめ

#### ● 支部活動の記録（5月～10月）

- 5/3 津市神戸大釜池銃猟禁止区域設定に係る意見書を提出
  - 5/5 五主海岸清掃活動（津地区）
  - 5/12 斎宮池調整池建設工事に係る環境影響評価準備書への意見を提出
  - 5/19 尾鷲市粟の木谷鳥獣保護区についての意見書の提出
  - 5/19 木曾三川、伊勢湾岸北部指定猟法禁止区域の指定についての意見書を提出
  - 5/20 伊勢市上野町銃猟禁止区域の指定に係る意見書を提出
  - 5/24 事務局会議
  - 5/29 2005年度総会・第1回理事会・2004年度最終理事会
  - 5 パードウォーク全国一斉野鳥販売実態調査
  - 6/21 密猟パトロール（南勢地区）
  - 6/22 「木曾岬干拓地環境整備事業環境影響評価準備書の調査やり直しをお願い」提出
  - 6/23 芸濃町休猟区設定に係る意見書を提出
  - 6/24 支部報しろちどり第47号発行・発送作業（編集部）
  - 6/24 加茂川水系河川整備計画（案）についての意見書を提出
  - 6/25～26 第13回中部ブロック会議（福井県）へ市川副支部長が参加
  - 6/28 五主海岸の件で国土交通省中部地方整備局津松阪港事務所へ
  - 6/30 五主海岸の件で県農水商工部水産基盤室から説明を受けた（津地区）
  - 7/3 いなべ市大安町中部鳥獣保護区・木曾川中流銃猟禁止区域・鈴鹿市高岡銃猟禁止区域・鈴鹿市東部銃猟禁止区域／設定に係る意見書を提出
  - 7/3 志摩市英虞湾銃猟禁止区域設定・南勢町切原鳥獣保護区解除／に係る意見書を提出
  - 7/7 事務局会議
  - 7/17～18 自然文化祭（松阪市みえこどもの城）へ出展（松阪地区）
  - 7/19 密猟パトロール（南勢地区）
  - 7/30 木曾岬干拓地整備事業環境影響評価準備書についての県支部の意見書に対して、県が見解を説明（保護部）
  - 8/17 県・警察との三者合同による密猟パトロール（南勢地区）
  - 8/20 オオタカシンポジウム（埼玉県）へ参加（保護部）
  - 9/14 支部報しろちどり第48号発行・発送作業（編集部）
  - 9/17 保護部会
  - 9/30～10/1 自然観察指導員講習会へ2名派遣
  - 10/22 木曾岬干拓整備事業環境影響評価準備書に対する意見聴取会へ参加
- これからの予定（11月～）
- 11/6 第2回理事会
  - 12 支部報しろちどり第49号発行



オオミズナギドリ





保護部より

○木曾岬干拓地アセスメント聴取会開かれる

10月22日三重県環境森林部が主催した「木曾岬干拓地環境整備事業聴取会」が開かれました。三重県支部からは杉浦支部長、近藤保護部長、平井、村田理事が出席し、意見をのべました。また野鳥の会本部東陽一氏・愛知県支部加藤倫教氏・名古屋鳥類調査会森井豊久氏が出席し、それぞれ、チュウビの繁殖地としての干拓地の重要性を訴え、またアセスメント調査の不備を指摘しました。また三重県が干拓地の南端に57haの保全区を設けることで、チュウビ3つがいの繁殖が保障できるとした案に対し、疑問が述べられ、かつ否定的な意見が述べられました。また愛知大学市野教授、三重大学高山教授などから、当干拓地を干潟にもどすべきであるとの意見が出されました。主催者側からはなんら答弁もなく、意見を聞き置くという、きわめて官僚的な対応に終わりました。この様子は10月23日の毎日新聞に報道されました。

○鳥類生息地域調査始まる

三重県支部は1998年に県内各地の鳥類の棲息地を調査し、その結果に基づき、冊子「身近な自然を守るために」を2001年に発行しました。その後も鳥類の棲息地も徐々に変化しています。今回再び棲息地調査を行うことにしました。この調査は県下で重要な生息地域の現状を把握すると共に、将来開発により、失われる危険性を持つ地域をあらかじめ調査するという目的があります。今回は2005年秋から1年間、前回調査した場所や新たに設定した場所を調査します。調査方法はライン調査、定点調査あるいは両者を混合した調査とします。この調査は支部独自で行うものです。北勢地区では海蔵川、鈴鹿川、員弁川を、津地区では芸濃町安濃ダム上流の竹子谷林道、芸濃町横山池、津市偕楽公園、香良洲町香良洲公園を、伊賀地区では伊賀市法花（ほっけ）、名張市中村及び新田、名張市緑が丘を調査することになりました。南勢地区、東紀州などは今後調査地を選定する予定です。支部会員のみなさんの積極的な参加をお願いします。

	<b>取扱商品</b> フィールドスコープ 双眼鏡(小型・大型) 天体望遠鏡 カメラ(新品・中古) その他光学製品各種
	<b>取扱メーカー</b> KOWA・NIKON・FUJINON MIYAUCHI・VIXEN・PENTAX他
<b>中部地区最大の光学製品専門店</b> <b>TELESCOPE CENTER EYEBELL</b>	
テレスコープセンターアイベル (株式会社アイベル) 〒514-0801 津市船頭町3412(メガネのマスダ2F) TEL 059-228-4119 定休日/毎週水曜日 営業時間/10:00~19:00 ホームページ <a href="http://www.eyebell.com">http://www.eyebell.com</a> メールアドレス <a href="mailto:eyebell@diamond.broba.cc">eyebell@diamond.broba.cc</a>	



## 野鳥記録

### 野鳥記録

(受付順)

種名	個体数	観察日	場所 (通称)		備考・メモ	報告者
オオハシシギ(※)	1	8月11日	松阪市三雲町	曾原新田	今季初認	安藤 宣朗
ムナグロ	3	8月13日	楠町	鈴鹿川派川河口	今季初認	安藤 宣朗
メダイチドリ	12	8月13日	楠町	鈴鹿川派川河口	今季初認	安藤 宣朗
ユリカモメ	3	8月13日	楠町	鈴鹿川派川河口	今季初認	安藤 宣朗
サルハマシギ	1	8月22日	楠町	鈴鹿川派川河口	今季初認	安藤 宣朗
エリマキシギ	1	8月23日	松阪市三雲町	曾原新田	今季初認	安藤 宣朗
トウネン	1	8月24日	楠町	鈴鹿川派川河口	今季初認	安藤 宣朗
オバシギ	2	8月24日	楠町	鈴鹿川派川河口	今季初認 (冬羽)	安藤 宣朗
オオソリハシシギ	2	9月14日	楠町	鈴鹿川派川	今季初認 (成鳥冬羽)	安藤 宣朗
ホウロクシギ	3	10月11日	川越町	高松海岸	今季初認	安藤 宣朗
カシラダカ	3	10月18日	四日市市 坂部が丘		今季初認	安藤 宣朗
ハジロカイツブリ	1	10月18日	四日市市磯津	鈴鹿川河口	今季初認	安藤 宣朗
カンムリカイツブリ	2	10月18日	四日市市磯津	鈴鹿川河口	今季初認	安藤 宣朗
ジョウビタキ	2	10月20日	菟野町	県民の森	今季初認	安藤 宣朗
アメリカヒドリ	1	10月26日	四日市市保々	北勢中央公園	今季初認	安藤 宣朗
オンドリ	2	10月26日	四日市市保々	北勢中央公園	今季初認	安藤 宣朗
チョウゲンボウ	1	10月12日	玉城町日向			西村泉
チョウゲンボウ	1	10月16日	玉城町山神			西村泉
ジョウビタキ	1	10月19日	玉城町日向			西村泉
オンドリ	41	11月4日	津市片田	ため池	当地初認	川口久美
ミュビシギ	1	7月30日	津市町屋浦		今季初認	平井 正志

#### 《野鳥記録に添えて》

上表記録中の※印「オオハシシギ」については、『しろちどり』前48号掲載に間に合う時期に届きましたが、意図的にその公表を遅らせたものです(写真次ページ)。

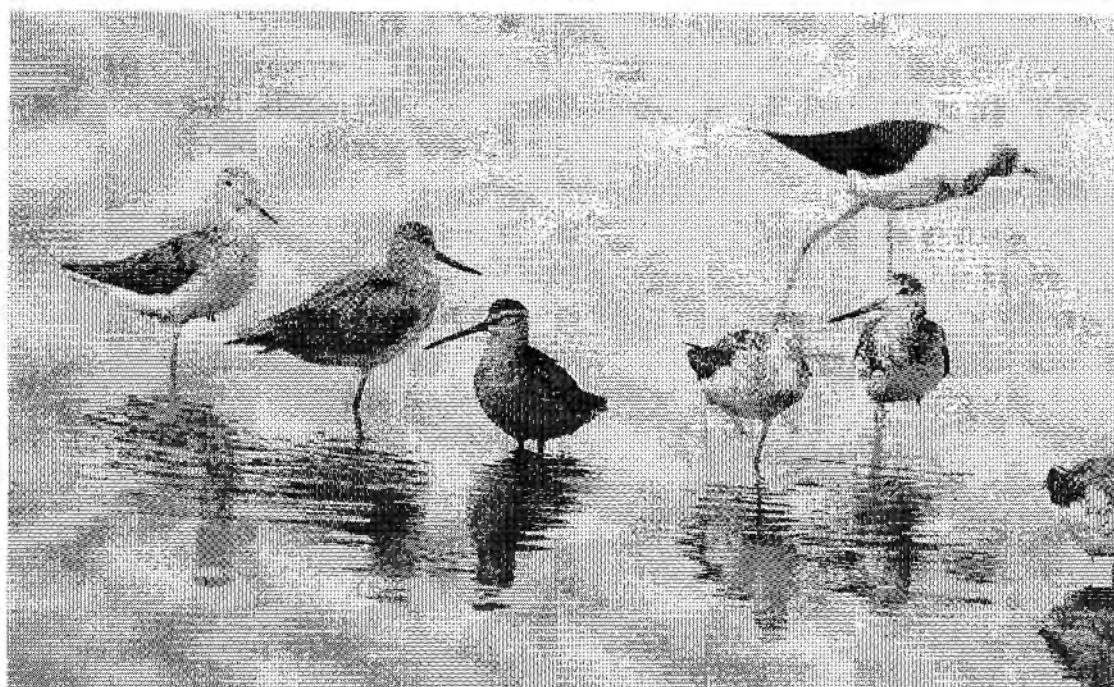
私たち保護部では、皆様から寄せられた野鳥記録の公表に当たり、① 稀少猛禽及び繁殖に関する情報等、『種の保護』の点から公表が好ましくない ② 記録場所が個人の所有地である等、バーダー集中によって『土地の持ち主や近

隣住民への多大なご迷惑が危惧』される

③ 『その他の理由』により公表が不適切である。などに着目し、事前にEメールで「公表是非検討作業」を行っています。そしてその結果、公表のタイミングや場所の表現を調整したり、あるいは公表を見合わせたりすることがあります。

もちろんこの場合でも、お寄せいただいた情報は、そのまま正確に、大切にお預かりすることは申し上げるまでもありません。

(保護部 川口久美)



オオハシシギ (中央) (安藤宣朗 撮影)

探鳥会報告

2005年8月～10月

● 干潟に見られる野鳥と餌の関係

2005年8月21日(日) 10:00-12:00

三重郡川越町高松 高松海岸

市川雄二 高和義 参加者6人

(会員5人、会員外1人)

カワウ(22)、ダイサギ(3)、コサギ(7)、アオサギ(2)、カルガモ(1)、コチドリ(2)、キョウジョシギ(1)、キアシシギ(1)、イソシギ(1)、ソリハシシギ(2)、ユリカモメ(2)、ウミネコ(501)、キジバト(1)、ハクセキレイ(2)、スズメ(1)、ムクドリ(1)、ハシボソガラス(19)、ドバト(1)。 計18種

探鳥会開始直前まで、大雨が降り、参加者はいないのではないかと思いますでしたが雨も次第に止み参加者6名でした。野鳥誌でこの行事を知ったという岐阜県からの参加者もあって熱心さに感激した。

● 雲出川河口探鳥会

2005年8月28日(日) 9:00-11:00

松阪市五主町雲出川河口

多田弘一 西浦克征 参加者31人

(会員25人、会員外6人)

カワウ(95)、アマサギ(10)、ダイサギ(10)、コサギ

(5)、アオサギ(5)、ミサゴ(2)、トビ(2)、ハヤブサ(1)、シロチドリ(10)、ケリ(1)、キョウジョシギ(3)、トウネン(20)、キアシシギ(20)、ソリハシシギ(10)、ウミネコ(100)、キジバト(20)、オオヨシキリ(1)、セッカ(1)、スズメ(10)、ムクドリ(40)、ハシボソガラス(5)。 計21種

干潟のシギチ類の観察は、時期と潮時を考慮する事が大切なので、試験的に小潮の干潮の中間帯を選んでみた。干潟の出現状態は、理想的であったが、この日は、特別にシギチ類の姿が少なかった。上空をハヤブサが飛んだので、そのせいにしておこう。

探鳥会の二日前は、同地に、アジサシとコアジサシの100羽以上の群れが飛来していたので、当日を楽しみにしていたのだが・・・。

同時期の同市の海辺では、探鳥会で観察出来なかったシギチ類は、メダイチドリ(3)、オバシギ(12)、チュウシャクシギ(多数)、アオアシシギ(多数)、ヨーロッパトウネン(1)が、同じく養魚池及び田園地帯では、セイタカシギ(10)、オグロシギ(4)、オオハシシギ(2)、エリマキシギ(8)、コアオアシシギ(1)、キリアイ(5)、ヒバリシギ(20)、タカブシギ(多数)、ジシギ類(10)などがみられたが、探鳥会を開催するには望ましくない土地である。

なお、カイトボーダーの皆様には、ゲレンデ



## 探鳥会報告

使用の自粛を申し入れ、快く応じていただいた。文末ながら、残暑激しい中、ご参加、ご協力いただいた皆様に厚く御礼申しあげたい。

### ● 木曾岬干拓地探鳥会

(共催 愛知県野鳥保護連絡協議会)

2005年8月28日(日)

三重県木曾岬干拓地/愛知県鍋田干拓地

近藤義孝 村田芳雄 参加者18人

カイツブリ(3)、カワウ(300)、ゴイサギ(15)、アマサギ(60)、ダイサギ(15)、チュウサギ(10)、コサギ(14)、アオサギ(20)、カルガモ(11)、ミサゴ(2)、トビ(5)、ハイタカ(1)、チョウゲンボウ(2)、キジ(2)、コチドリ(4)、ケリ(10)、クサシギ(5)、イソシギ(10)、ソリハシシギ(5)、キジバト(12)、ヒバリ(5)、ショウドウツバメ(20)、ツバメ(30)、ハクセキレイ(1)、ヒヨドリ(1)、オオヨシキリ(1)、セッカ(20)、カラヒワ(3)、スズメ(70)、ムクドリ(2)、ハシボンガラス(100)、ハシブトガラス(50)、ドバト(100)。

計33種

ショウドウツバメ・ソリハシシギなど渡り鳥が観察できるようになった。

### ● 櫛田川河口探鳥会

2005年9月4日(日) 9:30-11:45

松阪市高洲町

中村洋子 宮田たつ 参加者13人

(会員12人、会員外1人)

カイツブリ、カワウ、ダイサギ、コサギ、アオサギ、マガモ、カルガモ、オナガガモ、トビ、シロチドリ、ダイゼン、ケリ、オバシギ、アオアシシギ、キアシシギ、イソシギ、ソリハシシギ、オオソリハシシギ、チュウシヤクシギ、セッカ、スズメ、ハシボンガラス、ハシブトガラス。 計23種



イソヒヨドリ

下見(8月31日)の時には、トウネン、ヒバリシギ、キリアイ等小さいシギが池にたくさん見られたが、当日は干潟が多く現れ(大潮)鳥が散り、近くには少ししかいなかった。

### ● 海蔵川探鳥会

2005年9月13日(火) 9:40-12:00

四日市市西坂部町

尾畑玲子 高和義 参加者7人

(会員5人、会員外2人)

カイツブリ(4)、カワウ(4)、ゴイサギ(2)、ササゴイ(2)、ダイサギ(2)、チュウサギ(3)、アオサギ(2)、カルガモ(7)、ケリ(1)、コチドリ(7)、キジバト(15)、カワセミ(2)、ヒバリ(3)、ツバメ(2)、コシアカツバメ(1)、ハクセキレイ(1)、セグロセキレイ(4)、ヒヨドリ(5)、モズ(3)、セッカ(1)、ホオジロ(2)、スズメ(3)、ムクドリ(100+)、ハシボンガラス(4)、ハシブトガラス(2)、ドバト(1)。 計26種

ササゴイの成鳥と幼鳥が同じ枝にとまっていた。この近くで繁殖しているのかもしれない。インターネットで調べて初参加したという非会員が1人。野鳥に強い関心を持ち、積極的に参加してくれる人たちがいることがうれしい。

### ● 多度山探鳥会

2005年9月24日(土)

桑名市多度町多度山周辺

近藤義孝 加藤光弘 参加者10人(会員9人、会員外1人)

カワウ(1)、アマサギ(10)、ミサゴ(2)、ハチクマ(8)、ハイタカ(1)、サシバ(6)、ケリ(1)、キジバト(4)、ヒヨドリ(3)、ヤマガラ(2)、シジュウカラ(1)、ハシボンガラス(3)、ハシブトガラス(1)。 計13種

サシバ・ハチクマの数は少なかったが、すぐ近くを飛んでくれました。魚を抱えたミサゴや、ハイタカも見られました。

### ● 木曾岬干拓地探鳥会

(共催 愛知県野鳥保護連絡協議会)

2005年9月25日(日)

三重県木曾岬干拓地/愛知県鍋田干拓地

近藤義孝 村田芳雄 参加者10人

カワウ(200)、ゴイサギ(4)、アマサギ(5)、ダイサギ(7)、チュウサギ(20)、コサギ(6)、アオサギ(5)、カルガモ(15)、コガモ(11)、ミサゴ(6)、トビ(2)、キジ(1)、コチドリ(2)、ムナグロ(9)、クサシギ(6)、イソシギ(2)、ウミネコ(1)、キジバト(5)、ヒバリ(15)、ショウドウツバメ(200)、ツバメ(20)、ハクセ



## 探鳥会報告



キレイ (3)、ヒヨドリ (1)、モズ (1)、ノビタキ (3)、セッカ (22)、スズメ (30)、ムクドリ (5)、ハシボソガラス (50)、ハシブトガラス (50)、ドバト (30)。

計 31 種

台風の影響か、強い風で、鳥の飛ぶには辛い天気でした。

チュウヒやオオタカ・ハヤブサ・チョウゲンボウなどは姿を現さなかった代わりに、トビとミサゴが旋回してくれました。

### ● 伊勢のタカ渡り探鳥会

2005年10月1日(土) 7:30-10:00

伊勢市宇治浦田町・五十鈴川河川敷

林淳子 山田昭子 参加者 27 人 (会員 22 人、会員外 5 人)

カイツブリ、カワウ、アマサギ、ダイサギ、コサギ、アオサギ、カルガモ、ミサゴ、ハチクマ、トビ、サシバ、ヒクイナ、バン、イソシギ、キジバト、アマツバメ、カワセミ、ツバメ、キセキレイ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、ヒヨドリ、モズ、イソヒヨドリ、エナガ、ヤマガラ、シジュウカラ、ホオジロ、カワラヒワ、スズメ、ムクドリ、ハシボソガラス、ハシブトガラス。

計 33 種

今日のサシバの渡りは 40 羽余りと数も少なく、それも肉眼では無理で上空に目を凝らしサシバを捜すという何とも疲れる探鳥会で、タカ渡りを実感することは出来ませんでした。それでも川辺では水鳥たち、堤防の桜並木ではエナガ、ヤマガラが間近く観察でき、愛らしい仕草で皆を楽しませてくれました。

### ● お熊ヶ池探鳥会

2005年10月1日(土) 9:30-13:30

松阪市 飯高町

西村四郎 中村洋子 参加者 8 人 (会員 8 人)

トビ、サシバ(10)、クマタカ(3)、ハリオアマツバメ、アマツバメ、ヤマセミ、アオゲラ、コゲラ、ツバメ、イワツバメ、エゾビタキ、ヒガラ、ヤマガラ、シジュウカラ、メジロ、ホオジロ、カケス、ハシボソガラス。 計 18 種

クマタカはじっくり観察出来ました。アマツバメの風を切る音も聞けました。

### ● 上野公園探鳥会

2005年10月16日(日) 10:00-12:00

伊賀市丸ノ内

塗矢尋一 田中豊成 参加者 9 人 (会員 8 人、会員外 1 人)

キジバト、カワセミ、コゲラ、ツバメ、キセキレイ、セグロセキレイ、ヒヨドリ、モズ、エナガ、シジュウカラ、メジロ、カワラヒワ、イカル、ムクドリ、ハシブトガラス、ドバト、アイガモ。 計 17 種

時期が少し早かったので、まだ冬鳥は少なかった。

### ● 白塚・町屋海岸探鳥会

2005年10月16日(日) 10:00-12:00

津市白塚・町屋海岸一帯

石原宏 大西幸枝 参加者 18 人 (会員 16 人、会員外 2 人)

カワウ、コサギ、シロチドリ、ミユビシギ(120)、ユリカモメ、ウミネコ、ツバメ、モズ、スズメ、ハシブトガラス。 計 10 種

当該海岸一帯は、県内ではミユビシギが群れで立ち寄る数少ない場所で当日も約 120 羽ほどの群れが観察できた。午後からは有志による交流会を白塚市民センターで会食をしながら開催し、12 名が参加。

ミヤマホオジロ





## 探鳥会報告：編集後記

### ● 木曾岬干拓地探鳥会

(共催 愛知県野鳥保護連絡協議会)

2005年10月25日(日)

三重県木曾岬干拓地/愛知県鍋田干拓地

近藤義孝 村田芳雄 参加者16人

カイツブリ(11)、カワウ(70)、ダイサギ(20)、コサギ(20)、アオサギ(10)、マガモ(3)、カルガモ(70)、コガモ(15)、ヒドリガモ(1)、ホシハジロ(1)、キンクロハジロ(1)、ミサゴ(10)、トビ(5)、オオタカ(2)、ツミ(1)、ハイタカ(1)、ノスリ(2)、チュウヒ(4)、

ハヤブサ(2)、チョウゲンボウ(4)、キジ(9)、コチドリ(2)、ケリ(2)、アオアシシギ(1)、クサシギ(8)、イソシギ(3)、タシギ(1)、キジバト(6)、カワセミ(1)、ヒバリ(5)、ショウドウツバメ(15)、ツバメ(1)、ハクセキレイ(7)、ヒヨドリ(8)、モズ(20)、セッカ(1)、ホオジロ(1)、カワラヒワ(25)、スズメ(120)、ムクドリ(22)、ハシボソガラス(50)、ハシブトガラス(25)、ドバト(30)。 計43種

今回は猛禽類のオンパレードだった。午後には観察を続けた人の報告だと、さらにハイロチュウヒの雄とコチョウゲンボウも出現したそう。



ナベズル

### 編集部より

48号挿絵31ページの「サワグルミ」は「オニグルミ」の、また23ページの「サネカズラ」は「テイカカズラ」の間違いでした。また22ページ西村泉氏の住所は「明和町」ではなく「玉城町」でした。お詫びして訂正します。

50号記念号の写真を募集しています。カラーで印刷する予定です。ふるって投稿ください。締め切りは12月末日です。投稿多数の場合は編集部で選考いたします。

### 編集後記

我々の編集部が担当してから、もはや11号目である。色々と苦心して三重県の野鳥と自然をまとめ、紹介する特集を組んできた。しかし、まだまだやり足りないことは山ほどある。実際に調査されていない場所、支部会員の目の届いていない場所も多い。今回のため池にしても然り、冬はカモが来るのでだれもが見に行くが、夏はほとんど見る人がいない。カイツブリはどうなっているのだろうか。今年も浮き巣を作っているのだろうか。水辺はどうなっているのだろうか。だれも知らないうちにそんな場所が開発され、失われていくのが残念ながら、現状である。地図にあったはずのため池が駐車場になっているのを見て唾然とした。(MH)

### しろちどり 49号

2005年12月5日発行

題字： 濱田 稔

表紙絵： 田中豊成

カット： 田中豊成・平井正志

編集： 平井正志 〒514-2325

安芸郡安濃町田端上野910-49

発行所： 日本野鳥の会三重県支部

杉浦邦彦方

〒516-0026 伊勢市宇治浦田2丁目9-4

<http://www.amigo2.ne.jp/~miebirds/>

印刷： 伊藤印刷株式会社